

単元デザイン FIRST STEP ―中学校社会科―

1 単元デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 単元デザインの3つの手順 ※本資料では、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編を、学習指導要領解説と表記しています。

1 学習指導要領解説の各分野の目標と内容を踏まえて、単元の目標を設定し、単元の指導と評価の計画を立てます。

学習指導要領解説の育成を目指す資質・能力の三つの柱や各分野の目標、内容と照らし合わせながら、単元で働かせたい見方・考え方を踏まえて、単元の目標、単元の評価規準、単元の指導と評価の計画を作成します。

ここでの見方・考え方とは、「社会的な見方・考え方」のことを指しています。

社会的な見方・考え方

課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。

学習指導要領解説 p.7

中学校社会科における「社会的な見方・考え方」は、次の3つを総称した呼称です。それぞれの具体を確認しましょう。

社会的事象の地理的な見方・考え方

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

社会的事象の歴史的な見方・考え方

社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

現代社会の見方・考え方

社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

学習指導要領解説 p.29、p.83、p.126

2 学習指導要領解説の各分野の目標と内容、働かせたい見方・考え方を踏まえて、単元を貫く問いを設定します。

単元の目標の実現に向けて、働かせたい見方・考え方と事項とを踏まえてめあて(又は小単元の問い等)を作成します。作成しためあて(又は小単元の問い等)を相互に結び単元を貫く問いを設定します。

3 情報を収集する活動や、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする活動などを、学習過程に位置付けます。

単元の目標の実現に向けて、課題解決的な学習過程 **課題把握** → **課題追究** → **課題解決** の中に、生徒が課題を追究したり解決したりする活動を取り入れます。

学習指導要領では、教科の目標として、「課題を追究したり解決したりする活動を通して」資質・能力を育成することが示されています。

活動の具体を確認しましょう。

「予想や仮説を立てる」「予想や仮説の検証に向けて情報を収集する」「考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする」「考察、構想したことをまとめ、学習を振り返る」など

上記の手順は一方向を示していますが、1 から 3 を行きつ戻りつして相互の関連を図り、単元全体の整合をとることが望ましいと考えられます。この手順を踏まえた単元デザインの具体(例)を、次に示します。



3 単元デザインの例

歴史的分野 項目C(1)近代の日本と世界 事項ア(7)～(I)「欧米諸国のアジア進出」「明治維新」「立憲国家の成立」「近代産業の発展」を単元とする場合

1 学習指導要領解説の各分野の目標と内容を踏まえて、単元の目標を設定し、単元の指導と評価の計画を立てます。

※本項では、見方・考え方に当たる部分を紫で示しています。

学習指導要領解説の目標(歴史的分野)

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、(中略)公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、(中略)国際協調の精神を養う。

(学習指導要領解説 pp.83-86より一部引用)

学習指導要領解説の内容(歴史的分野 C(1) 近代の日本と世界)

- ア(7) 欧米諸国における産業革命(中略)などを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。
- (1) 開国とその影響(中略)などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解すること。
 - (ウ) 自由民権運動(中略)などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解すること。
 - (イ) 我が国の産業革命(中略)などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解すること。
- イ(7) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、(中略)などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、(中略)近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(学習指導要領解説 pp.110-114より一部引用)

単元の目標

- (1) 欧米諸国のアジア進出が日本の政治や社会、産業、外交、文化に与えた影響、並びに日本の変化を理解するとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 開国の背景を当時の欧米社会の変化と関連付けたり、明治維新の諸改革などを経て立憲国家となった意義や日清・日露戦争下の日本と国際社会との関係を具体化したりするなどして、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、当時の国際関係の中で日本が立憲国家となった意義や国際社会との関係性、現在とのつながりについて主体的に追究、解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

単元の評価規準

単元の目標の実現の状況を判断するため、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の巻末資料(p.105～)に示された「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考に作成します。その結果、単元の目標と対の表現になります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・欧米諸国のアジア進出が日本の政治や社会、産業、外交、文化に与えた影響、並びに日本の変化を理解している。 ・諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・開国の背景を当時の欧米社会の変化と関連付けたり、明治維新の諸改革などを経て立憲国家となったその意義や日清・日露戦争下の日本と国際社会との関係を具体化したりするなどして、表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、当時の国際関係の中で日本が立憲国家となった意義や国際社会との関係性、現在とのつながりについて主体的に追究、解決しようとしている。

(参考資料 pp.112-113 を基に作成、下線部は「単元の目標」の文末表現を書き変えたことを示す)

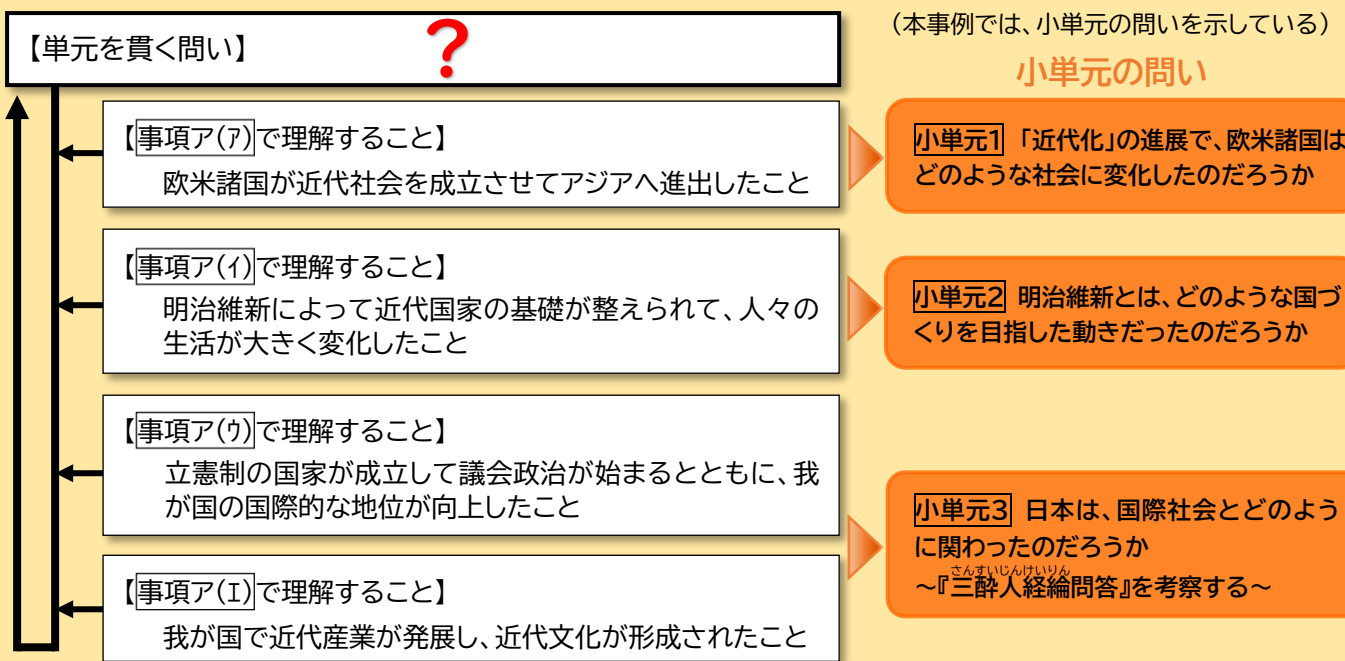
学習評価の詳細は、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」及び「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。

単元の指導と評価の計画

単元の目標と単元の評価規準を踏まえ、評価場面と評価方法を計画します。その際、単元を貫く問いの設定が必要になります。具体を、次の 2 と 3 に示します。

2 学習指導要領解説の各分野の目標と内容、働かせたい見方・考え方を踏まえて、単元を貫く問いを設定します。

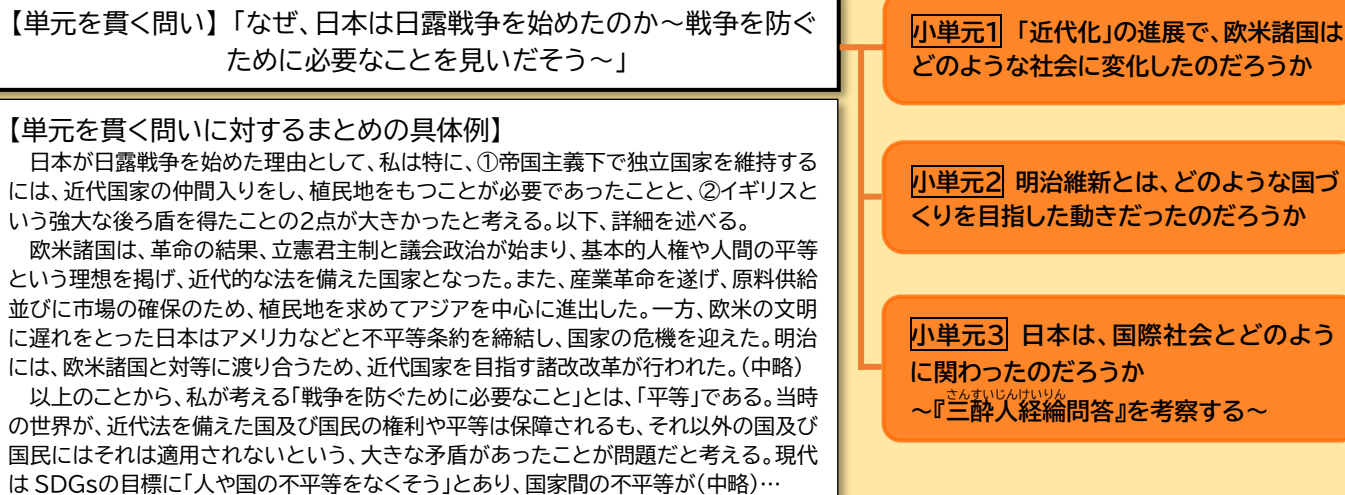
① 学習指導要領解説の各事項で「理解すること」と示されている内容の理解に向かうよう、めあて(又は小単元の問い、各次の問い)を立てます。



私は、【事項ア(ア)】の欧米諸国のアジア進出と【事項ア(イ)】の明治維新は因果関係にあるので、それぞれに問いを立て、そのまともを関連付けることで、生徒の理解が深まると考えました。【事項ア(ウ)】の日本の国際的な地位の向上と【事項ア(エ)】の日清戦争の前後における日本の産業革命と近代産業の発展は相関関係にあるので、【事項ア(ウ)】と【事項ア(エ)】については、両者を関連付けて、問いを一つにしました。

ポイント
見方・考え方を働かせて問いを追究することで、生徒はより深い理解へ近付きます。
1 で作成した、単元の目標の見方・考え方が働く問いになっているか、確認しましょう。

② 単元を貫く問い及びその問いに対するまともの具体例を作成し、めあて(又は小単元の問い、各次の問い)の追究の結果との関連を確認します。



ポイント
①と同様に、見方・考え方が働く単元を貫く問いになっているか、確認しましょう。手順は①→②と一方向を示していますが、②から行うことも考えられます。単元の目標の実現に向け、①と②を行きつ戻りつて各事項、各めあて（本事例は小単元の問い）、単元を貫く問いの相互の関連を図り、全体の整合をとります。また、生徒自身が問いを選択したり設定したりできるよう働き掛けていきましょう。

3 情報を収集する活動や、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする活動などを、学習過程に位置付けます。

単元の目標の実現に向け、2 の単元を貫く問いを追究する学習活動を、以下の、単元の指導と評価の計画に取り入れました。

ポイント
生徒の興味・関心を喚起したり解決すべき切実な問いとして単元を貫く問いと出合わせたりするなど、生徒が主体的に学ぶための手立てが重要です。また、学習適性に応じて学び方を選択できるなど、生徒が学習方法を選択・決定できるように工夫します。以下に、そのポイントを示します。

時	ねらい・主な学習活動	評価の観点			評価基準と【評価方法】
		知	思	態	
単元の導入	【ねらい】当時の国際関係の中で日本が立憲国家となった意義や国際社会との関係性、現在とのつながりについて、答えを予想したり追究に役立ちそうな情報を挙げたりするなど追究への見通しをもつ。 【単元を貫く問い】「なぜ、日本は日露戦争を始めたのか～戦争を防ぐために必要なことを見いだそう～」				● 明治政府の諸改革の目的や条約改正などに着目して、単元を貫く問いに対する答えを予想したり、追究に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、追究への見通しを立てている。 【単元振り返りシート】
小単元1	【ねらい】欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、欧米諸国が近代化を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 【小単元の問い】「『近代化』の進展で、欧米諸国はどのような社会に変化したのだろうか」 ・1次の問い「なぜ欧米諸国はアジアへ進出したのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 ・2次の問い「日本の開国は、列強との貿易の影響とともに、日本社会にどのような影響をもたらしたのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 ・1次及び2次でワークシートに記入したことを踏まえて、【小単元の問い】について考察し、ワークシートに記入する。 ・単元を貫く問いとの関わりを確認する。		●	●	資料から追究につながる情報を適切に読み取っている。 【ワークシート】 1次の問いについて、工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して考察し、結果を表現している。 【ワークシート】 ~~~~~ 工業化の進展と政治や社会の変化、列強との交易とその影響などに着目して、小単元の問いについて考察し、結果を表現している。 【ワークシート】 欧米諸国が近代化を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 【ワークシート】 自己の学びを振り返り、調整しようとしている。 【単元振り返りシート】
小単元2	【ねらい】明治政府の諸改革の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 【小単元の問い】「明治維新とは、どのような国づくりを目指した動きだったのだろうか」				途中省略
小単元3	【ねらい】議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したこと、近代作業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。 【小単元の問い】「日本は、国際社会とどのように関わったのだろうか～『三酔人経綸問答』を考察する～」				途中省略
単元のまとめ	【ねらい】近代前半の日本を大観して、政治や外交の展開、社会の変化、産業の発達、文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察し、考察した結果を表現する。 〈課題1〉政治や外交の展開、社会の変化、産業の発達、文化の特色などに着目して、単元を貫く問いについて自分の考えをレポートにまとめよう ◎なぜ、日本は日露戦争を始めたのか ◎戦争を防ぐために必要なことを見いだそう 〈課題2〉作成したレポートと、単元の始めの自分の予想とを比べ、加わった点や新たに気付いた点などを振り返ろう ・〈課題1〉政治や外交の展開、社会の変化、産業の発達、文化の特色などに着目して、単元を貫く問いについて自分の考えをワークシートに記述する。 ◎なぜ、日本は日露戦争を始めたのか ◎戦争を防ぐために必要なことを見いだそう ・各小単元の問いに対するまともと単元を貫く問いとを関連付ける。 ・〈課題2〉作成したレポートと、単元の始めの自分の予想とを比べ、加わった点や新たに気付いた点などを確認する。		○	○	政治や外交の展開、社会の変化、産業の発達などに着目し、比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し、獲得した知識を活用しながら日本が日露戦争を始めた理由について文章や図などでまとめている。 【ワークシート】 変化や影響などに着目して、当時の国際社会の関係性を考察し、現在を生きている私たちが戦争を防ぐために必要なことを見いだそうとしている。 【ワークシート】 単元における自己の学びの経緯を振り返って学びを確認しようとしている。 【単元振り返りシート】

学習評価の詳細は、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」及び「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。